



DSO参加機関 公開イベントのご案内

■ 岡山大学 ■

2016年度女性研究者シーズ研究会 「ウーマン・テニユア・トラック教員研究発表会」

ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 教員3名と、既にテニユアを取得した2名の若手女性研究者が最先端の研究成果を分かりやすく紹介します。教職員・大学院生の皆さんはもちろん、関係機関・一般の皆さまもぜひご参加ください。

【日時】平成28年12月20日 (火) 13:00~16:30

【講師】岡山大学ウーマン・テニユア・トラック教員

【場所】岡山大学創立五十周年記念館2階会議室

【開催機関】岡山大学

【関連情報】 <http://www.okayama-u-diversity.jp/researcher-support/news/968>

【問合先】岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室

〒700-8530 岡山市北区津島中1丁目1番1号

Mail : sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp HP : <http://www.okayama-u-diversity.jp/>

【対象】 DSO参加機関以外も対象



■ 土木研究所 ■

ワークライフバランス講習会 「親の入院・介護で、すぐやること・考えること・お金のこと」

【日時】平成29年1月10日 (火) 13:10~14:30

【講師】太田差恵子氏 (NPO法人パオッコ 理事長)

【場所】国立研究開発法人土木研究所 ICHARM棟1階講堂

【申込方法】29年1月5日 (木) までに、件名 : 「【所属機関名】1/10介護講習会参加申込」とし、

①氏名②所属③連絡先を、seki@pwri.go.jp までメールにてお申し込み下さい。

【開催機関】国立研究開発法人土木研究所

【問合先】総務部総務課 関 029-879-6700

【対象】 DSO参加機関のみ対象



お役立ち情報

■各種イベント■

「農業における女性・若者の活躍推進に向けたG7国際フォーラム」の開催及び参加者の募集

農林水産省主催が表記フォーラムの参加者を募集しています。本フォーラムは、本年4月に開催された「G7新潟農業大臣会合」のフォローアップ会合です。第一部がG7の政府実務担当者等の情報共有を目的とした会合、第二部が国内外の女性農業者によるパネルディスカッションの二部制で、全て公開です。

第一部（午前）は、G7の政府実務担当者や開発途上国の駐日大使館からの参加者が農業関係の女性・若者の活躍推進に向けた施策や制度に関し情報共有を行います。一般の方の傍聴も可能です。第二部（午後）では、国内外の女性農業経営者によるパネルディスカッションを実施し、G7の女性・若者農業者の経営との関わり等の実態を踏まえた、女性・若者が活躍できる農業のあり方、政策面での支援等について議論する予定です。

【日時】平成28年12月12日（月）

政府実務担当者会合（各国政府対象）9:30～12:30（入場受付開始：9:15）（予定）

パネルディスカッション（一般を対象）14:30～16:00（入場受付開始：14:00）（予定）

【場所】三田共用会議所（東京都港区三田2-1-8）

【URL】<http://www.maff.go.jp/j/press/kokusai/kikou/161028.html>

【申込方法】下記URLでお申し込みください。

<https://www16.nittsu.co.jp/event/contents/ev16fewy/>

講演者等

(1) 政府実務担当者会合

【講演者】

ランダル・ジョーンズ氏（経済開発協力機構（OECD）経済局シニアエコノミスト）

クララ・パーク氏（国際連合食糧農業機関（FAO）アジア・太平洋地域事務所地域ジェンダー担当

官）G7メンバーの女性・若者政策担当者等

(2) パネルディスカッション

【パネリスト】

高橋久美子氏（神奈川県 野菜農家：農業女子プロジェクトメンバー）

前田佳良子氏（熊本県 養豚経営：セブンフーズ株式会社 代表取締役）

アメリカ及びフランスの女性農業経営者（予定）

【コメンテーター】

安倍昭恵 内閣総理大臣夫人（予定）



お役立ち情報

■各種シンポジウム■

「つくば男・女（みんな）のつどい2016」

つくば市男女共同参画室主催による平成28年度つくば男女共同参画会議「つくば男・女（みんな）のつどい2016」が開かれます。講演「私たちの現代流幸福学」古市憲寿氏（作家／社会学者）のほか交流タイム（男女共同参画推進団体によるパネル展示）もあります。

【日時】平成28年12月3日（土）10:10～13:00

【場所】つくばカピオ

【申込方法】下記URLをご参照ください。

<http://www.city.tsukuba.ibaraki.jp/14271/14654/020269.html>



■各種シンポジウム■

「多様性を受容する社会に向けて～大学院に求められること～」

奈良先端大創立25周年記念事業として、第9回奈良先端大男女共同参画推進シンポジウムが開かれます。「多様性は誰のため、何のために必要なのか」渡辺美代子氏（国立研究開発法人科学技術振興機構副理事）、「高校生の進路と将来設計に関する現状」中岡義久氏（西大和学園高等学校校長）、「ダイバーシティ・マネジメントから大学院を考える」森田雅也氏（関西大学社会学部社会システムデザイン専攻教授）などの講演と、パネルディスカッションが行われます。

【日時】平成28年12月2日（金）15:00～17:30(予定)

【場所】奈良先端科学技術大学院大学 ミレニアムホール

【申込方法】下記URLをご参照ください。

http://www.naist.jp/gender/contents/log/news/event_161202_1.html#



イベント参加報告

「ファザーリング全国フォーラムinやまがた」参加報告

【日時】平成28年11月11日

【会場】山形ビッグウイング

【主催】ファザーリング全国inやまがた実行委員会

【後援】内閣府、文部科学省、厚生労働省、経済産業省外

【参加者】森林総合研究所 国際連携・気候変動研究拠点 佐野由輝

「山形から発信！～イグメン・イクボスが未来を拓く～ 父親の笑顔、母親の笑顔、子どもの笑顔が社会を変える」をテーマに、11月11日から12日までの2日間、山形県の山形ビッグウイングにおいて、ファザーリング全国フォーラムinやまがたが開催されました。

分科会2「パパが考える発達障がい児との関わり方」では、私が司会進行役を務めさせていただきましたが、会場が埋まるくらいの来場者がありました。はじめに、NPO法人ファザーリングジャパン（FJ）メインマンプロジェクトリーダーの橋謙太氏から、地域の中で父親が主体となって発達障がい児を育てていくことを目的としたメインマンプロジェクトの紹介があった後、FJ理事の高祖常子氏のコーディネートのもと、



発達障がいに関する専門家、発達障がい児の父親及び母親をパネリストとしたパネルディスカッションを行いました。事前に、山形県内の発達障がい児の保護者に協力を得て、「社会、学校、事業所、自治体、家族等へ」及び「発達障がい有する子を育てている父親へ」の2種類のメッセージを付箋に書いてもらっていました。付箋には、これまでお子さんを育ててきた中での、感謝の気持ち、行政等に対する切実なるお願い、我が子に対する不安と期待と希望、父親に対する本音等、読んでいて目頭が熱くなる言葉が綴られていました。それを元に、「パパが考える発達障がい児との関わり方」をテーマにパネルディスカッションが繰り広げられたのですが、我が子に発達障がいがあることによる特有の苦労はあるものの、結局は、父親、祖父母（特に父親の）、地域、友達、学校の理解とサポート、積極的な関わりが必要であるとの共通認識が得られました。現在の日本においては、発達障がい児の親に限らず、育児への負担は、まだまだ母親に大きいのしかかっています。そして父親の無理解、無関心、誤った判断等により、母親が鬱になったり、子どもの健全な成長にも影響を与えているという問題も生じています。家事・育児に関し、父親がもっと自分事として関わる必要があると強く感じました。（5ページへ続く）



(4ページより続く)

分科会5「メリット満載！イクボスのパパ育休マネジメントセミナー」では、はじめに、厚生労働省山形労働局の青山雄一氏から「男性の育児休業取得の現状」について紹介がありました。男性の育児休業取得率は増加傾向にはあるものの、2.65%（平成27年度）にとどまっています。一方で、育児休業を取得したかったが取得できなかった男性が3割を占めており、意識と行動が伴っていない実態も明らかになりました。その理由としては、「会社で育児休業制度が整備されていなかった」「職場が育児休業を取得しづらい雰囲気だった」等職場環境に一因があるようでした。男性の育児休業を定着させるためには、やはりイクボスの果たす役割が大きいですね。ちなみに私は、第2子誕生の際、育児休業を利用しています。

続いて、中央大学大学院特任研究員でイクメンプロジェクト推進員である高村静氏から「イクボスの育休取得マネジメントセミナー」がありました。使われた資料は、管理職向け研修資料～男性育児休業取得促進のために～で、Webサイトからパワポ資料及び動画資料をダウンロードできるので、各職場でも活用できると思います。イクボスアワード受賞者のインタビュー映像と、もともとダメボスだった本人が部下や妻の発言によりイクボスへと変わっていくドラマ映像が流され、思わず苦笑してしまうシーンがありました。そして、部下へのマネジメントはコミュニケーションマネジメントとワークマネジメントの2つの視点から行い、家庭に配慮しつつ、限られた時間で部下が成長し、仕事において活躍できる職場環境を実現することが重要であることを認識しました。男性が育児休業を取得するメリットとしては、まずは家族の中で親子及び夫婦間で良好な関係を築けること、さらには育児経験にから段取り力が身につく、仕事面でもより効率的な働き方への見直しが図られるとのことでした。

最後に、FJ理事堀越学氏をファシリテーター、山形県内の育休取得者及び育休取得者の上司をパネリストとして、男性の育児休業取得を促進するために必要なことを、上司の視点、部下の視点からディスカッションしました。育児休業取得経験者は、自らが広告塔となり、同僚に育児休業取得を進めること、上司は、部下が育児休業を取得しやすい雰囲気作りをすること、部下の育児休業期間を予め予測できることから、時間をかけて、部下の仕事の引き継ぎ、フォロー体制について計画的に確立することが重要であると発言していました。そして、登壇者全員が、高村氏が紹介した管理者向け研修資料を社内でも活用したいと述べていました。なお、研修資料には管理者向けの他、従業員向けもあります。

男性の育児休業取得は、家族にも、本人にも、会社にもメリットがあることを上司には認識してもらい、男性の育児休業取得率を飛躍的に向上させ、男性が主体的に家事・育児に関わるのが当たり前の中の中にしたいですね。

※ 両立支援を促進するための職場内研修用資料

<http://www.ikumen-project.jp/download/training.php>



各種お知らせ

■森林総合研究所■

男女共同参画意識調査を実施 来年度公表予定

森林総合研究所ダイバーシティ推進室では、この10～11月に、全ての役職員（常勤非常勤等を含む）を対象として、男女共同参画意識調査アンケートを実施しました。これまで平成19年、21年、24年の3回にわたり同様の調査を行っており、今回の調査は、男女共同参画やダイバーシティに対する職員の意識の現状を把握するとともに、過去からの変化を明らかにして今後の活動の参考とすることを目的にしています。

今年度中にアンケート結果の集計・解析を行って今後のダイバーシティ推進の活動に役立てるとともに、来年度には公表の予定です。



ニュースレターへ記事をご投稿ください！

「DSO News Letter」は各DSO参加機関へ、それぞれで働く方へ、また広く外部に向けて情報発信するツールとして発行しております。掲載を希望する記事がありましたら、数行の記事でも結構ですのでぜひお寄せください。

ニュースレターにはこのような記事を掲載しています。

- ・今後開催されるシンポジウムやセミナー、講演会など、イベントのお知らせ
- ・最近行われたイベント報告、あるいは参加報告
- ・最近取組中のこと
- ・その他、お役立ちや関連情報

記事の宛先

dso-secretary@ffpri.affrc.go.jp

ダイバーシティサポートオフィスのご案内

ダイバーシティ・サポート・オフィス（DSO）は、研究教育18機関をメンバーとして、平成19年より男女共同参画を連携して推進しています。参加機関相互のイベント等の機会提供、情報交換を行っています。当初は、科学技術振興調整費の支援を受けてスタートしましたが、現在はイコールパートナーシップでメンバーが対等に運営する、より開かれたDSOとして活動しています。

*DSOメンバー：産業技術総合研究所、森林総合研究所、物質・材料研究機構、農業・食品産業技術総合研究機構、千葉大学、筑波大学、神戸大学、土木研究所、国立環境研究所、国際農林水産業研究センター、防災科学技術研究所、高エネルギー加速器研究機構、理化学研究所、宮崎大学、上智学院、岡山大学、宇宙航空研究開発機構、大阪大学（加入順）